

令和 5(2023)年度 就職先(企業)対象アンケート集計結果

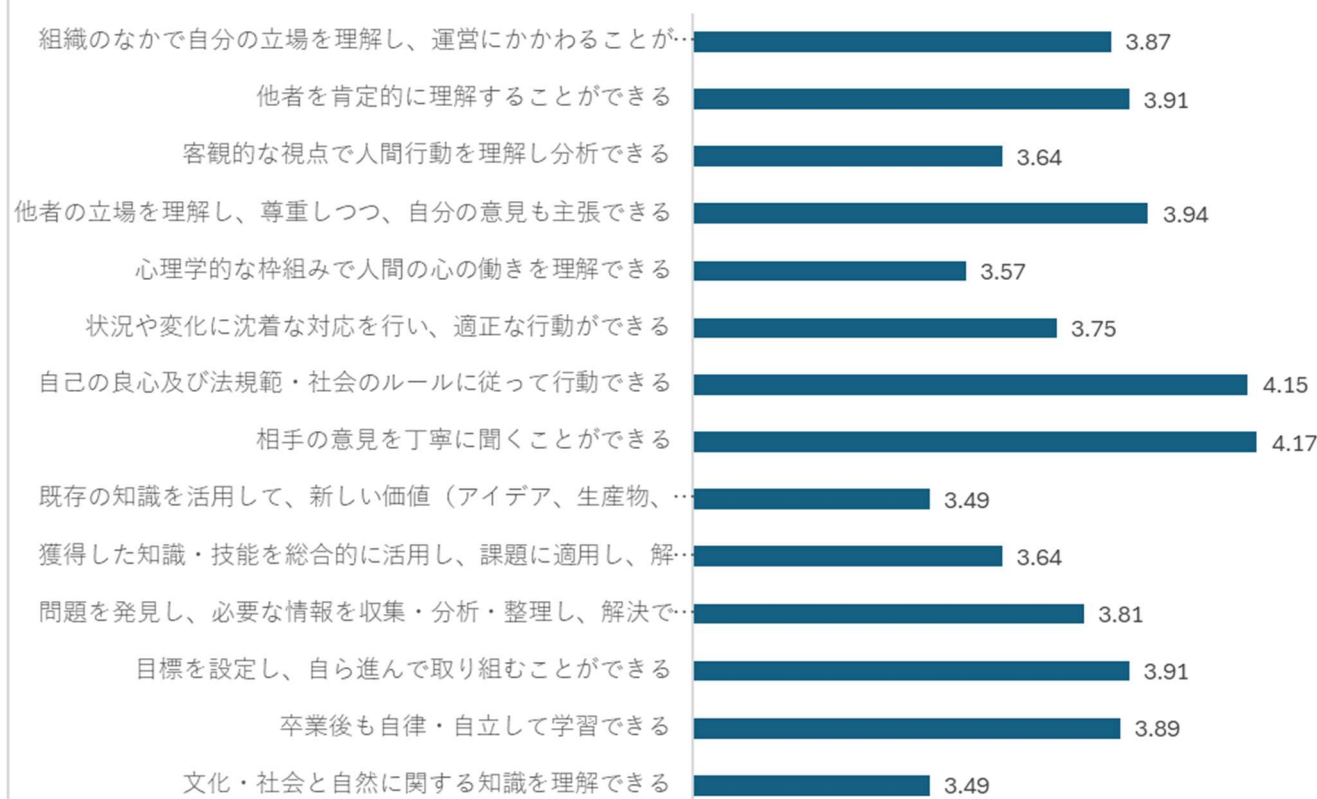
目的：本学の卒業生の就職先企業の担当者が、卒業生の学士力をどのように認識しているかを明らかにする。

方法：学士力の中から 14 項目を選定し、5 段階評定を求める質問フォームを作成した。

これを令和 6 (2024) 年 2～3 月、本学卒業生の就職実績がある企業を対象にオンラインにて回答を依頼したところ 53 社から回答が得られた。

結果および考察：

図1 就職先（企業）から見た本学卒業生の評定平均値（n=53）



全体的に、本学卒業生は学士力がおおむね身につけているという評価であった。なかでも「相手の意見を丁寧に聞くことができる（4.17）」「自己の良心及び法規範・社会のルールに従って行動できる（4.15）」は高い評価であった。聞く態度については心理専攻・モチベーション行動科学部ともに学生時代に十分に身につけられ

ると考えられる。

「文化・社会と自然に関する知識を理解できる (3.49)」「既存の知識を利用して新しい価値 (アイデア、生産物、方法等) を生みだせる (3.49)」他に比べてやや低い評価であった。

心理専攻卒業生もモチベーション行動科学部卒業生も多様な領域の心理学を学んだのだが、「心理学的な枠組みで人間の心の働きを理解できる (3.57)」は低い方の評価であった。その理由として「心理学的な枠組み」が何を表すのかが、回答をしてくださった企業の方々にはわかりにくい項目だったのではないかと考えられる。